

遺伝カウンセリングの最前線

⑩ 遺伝リテラシー向上と将来の遺伝診療

北大病院臨床遺伝子診療部 副部長

山田崇弘 (産科)

これまで私たちが連載してきた「遺伝カウンセリングの最前線」も最終回を迎えました。最後は遺伝リテラシー向上への取り組みと将来の遺伝診療について見解を述べま

す。2012年の夏に無傷の出生前遺伝学的検査(NIPT)についてセン

ンサーショナルな報道がなされました(第2回参照)。この報道により多くの混乱が起きました。その背景として最も重要な点が日本における遺伝リテラシー

たことがないかと答えてい

ます。また、日本の学校教育課程ではヒトの遺伝子について高等教育でこ

く一部取り上げられてい

るのみで、初等教育では人間の尊厳や人命の尊

さを学ぶ上で重要な多様性や唯一性について取り

は？ 知ってしまうこと

問題が私たちが突きつけ

患者に対して一般臨床

医、臨床遺伝専門医、認

定遺伝カウンセリング、遺

(おわり)

